

鶴見区区政会議 平成28年度第2回つる魅力向上部会

1 日時

平成28年9月26日（月） 19時00分～20時29分

2 場所

鶴見区役所 4階 402会議室

3 出席者

（委員）

木村委員、佐々木委員、猿渡委員、柴田委員、田中（潔）委員

（区役所）

河村区長、萩副区長、石川総務課担当係長、大川魅力創造課担当係長、

山本魅力創造課担当係長、大山魅力創造課担当係長、

西久保窓口サービス課担当係長

4 議題

1. 平成29年度鶴見区の取組みの方向性について

5 議事

開会 19時00分

○石川総務課担当係長 ただ今から鶴見区区政会議平成28年度の第2回つる魅力向上部会を開会いたします。

私、本日の司会を務めさせていただきます総務課担当係長の石川でございます。よろしくをお願いします。

本日は、岡本部会長、大原副部会長が所用のため欠席されておりますので、事前に佐々木委員に本日の議事進行についてお願いをさせていただいております。皆様よろしかったでしょうか。

ありがとうございます。

それでは早速ですが、これより議事進行を佐々木委員にお願いいたします。よろしくをお願いします。

○佐々木委員　皆さん、こんばんは。佐々木でございます。

今ご報告がありましたように、岡本部長が今日欠席ということですので、ちょっとかわって議事進行を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いします。

まず、今日の議題は平成29年度鶴見区の実施の方針についてということで、事務局のほうからご説明をお願いいたします。

○大川魅力創造課担当係長　魅力創造課魅力創造担当の大川でございます。

それでは、資料に従いまして、順番に説明をさせていただきます。

まず、資料1　平成28年度鶴見区の実施の方針についてでございます。

経営課題1　魅力あふれるまちづくり、戦略1－1　つる魅力の創造、こちらは運営方針にも掲げている内容となっております。

まず、めざす状態。区民が世代を問わず鶴見区の歴史やまちの魅力を感じ、愛着を深めている。区外にも広く鶴見区の実感を感じる人が増えている。

戦略。魅力的でにぎわいのある実施を通じて、全ての世代が参加しやすく、相互に交流を持つことができる事業を行う。

区の実感やまちの実感について触れる機会が少ない区民、特に転入者や子育て世帯等が、区の実感やまちの実感を知り、関心を持つ機会を創出する。

地域や家庭レベルの身近な生活の中で実践できるエコ活動など、さまざまな角度から環境に対する意識を高める実施を推進する。

地域住民が主体的かつ積極的に取り組む体制づくりや活動のサポート、関係機関との連携などを進めていく。

このような内容となっております。

魅力発信の実施としましては、地域の団体やボランティア、関係機関と連携・協力を得て、より魅力的で来場者や参加者の満足度が高いイベントを実施することで、

にぎわいを創出し、地域の活性化を促進しながら区外にも鶴見区の魅力を広める取り組みを行うとして、魅力創造事業のイベントを随時開催することとしております。

また、区民が世代を問わず、鶴見区の歴史やまちの魅力を感じ、愛着を深められる取り組みを行うということで、こちらは「発見！！つる魅力」冊子の転入世帯への配布、写真の撮影体験イベントを1回開催、区役所庁舎などを活用した音楽コンサートを毎月1回実施しております。

さまざまな広報媒体を活用しまして、区の魅力PRに取り組むということで、区の広報紙、ホームページ、フェイスブックをはじめ、広報板などによりまして、情報発信につきましても随時行っております。

続きまして、「環境」や「花と緑」をキーワードにした取り組みの推進をご説明いたします。よろしくお願いします。

○山本魅力創造課担当係長 鶴見区役所魅力創造課 山本と申します。よろしくお願いします。

それでは、「環境」や「花と緑」をキーワードにした取り組みの推進についてご説明いたします。

この取り組みにつきましては、花と緑のまちづくりへの活動参加者の裾野を広げていくとともに、環境に関する活発な区民活動を支援していくという取り組みを今年度行っております。

具体的な内容としましては、種花活動の複数拠点化です。こちらの種花活動は、区民ボランティアの方々が自分たちの手で種から花を育て、その花を公園や学校、幼稚園などの公共施設に植えることで、うるおいのあるまちづくりを進めていこうとするボランティア活動です。

活動の拠点としまして、これまでは今津の花づくり広場で春まきと秋まきの年2回、花づくり活動を行ってございましたけれども、今年度は活動の規模の拡大をめざして、ボランティアの方々の作業の負担軽減を図るという目的のために、今津の花づくり広

場に加えまして、鶴見緑地の西部コミュニティ広場の東側の一部に新たな花づくり広場を増設し、今年度の秋まきの１０月から、この広場も活用して実施していくことにしております。

続きまして、環境フェスタの開催１回につきましては、子育て世帯を対象に、環境に関してわかりやすく、親しみやすい内容で開催しています。親子で楽しみながら環境に関する気づきを持っていただくことで、家庭や地域でのさらなる環境意識の高まりにつなげ、鶴見区の魅力向上を図っています。

平成２８年度におきましても、さまざまな角度から環境問題をとらえる内容で、子育て世帯を対象に実施していきたいと考えております。

続きまして、環境学習会の開催３回につきましては、環境に優しいライフスタイルをテーマとして実施しております。身近なテーマで約１時間半程度の講座を考えておりまして、平成２８年度も１１月に３講座を実施予定です。

「環境」や「花と緑」をキーワードにした取組みの推進につきましては以上です。

○大川魅力創造課担当係長 魅力発信の取組み、「環境」「花と緑」をキーワードにした取組みの推進、どちらも平成２８年度の取組みとしましては、順調に推移をしている、進めていけているというところでございます。

先ほど魅力発信の取組みのところで、具体的なところに余りふれなかったのですが、イベントとしましては、今後、１０月につるみワールドフェスタ、１１月に写真撮影の体験イベント、１２月にウインターフェスティバル、鶴見光の花栈敷２０１６、そして、３月にＴＳＵＲＵＭＩ スプリングフェスティバルを予定しております。

楽園会議のイベントにつきましては、当初１１月で検討していたのですが、いろいろと内容などを考えていくにあたり、３月の実施で固まりまして、今ボランティアの皆様方と順次進めているところでございます。

あと、区役所庁舎を活用したコンサートですが、これは毎月区役所１階ロビーで開催しておりまして、３月には鶴見区民センター小ホールで出演者の皆様にお集まりを

いただいて、スプリングコンサートを開催させていただく予定をしております。

イベントに関しては以上です。また、随時ご案内をさせていただけるかと思えます。皆様よろしくお願いいたします。

それでは、資料２ 平成２９年度鶴見区の主な取組みの方向性ということでご説明をさせていただきますと思います。

１－１ つる魅力の創造についてでございます。

まず、上段左側、現状としまして、住宅開発などに伴って、子育て世帯を中心に人口が増加する中で、同世代、また世代を越えた交流やつながりをつくることで、地域への愛着が深まることが考えられる。

鶴見緑地などを活用した区民ニーズの高いイベントを開催することで、生活環境や利便性だけでない鶴見区のまちの魅力を高めることができる。

区民の社会貢献や地域主体の取組みと連携することで、区の生活環境やイメージのさらなる向上に資する取組みが可能である。

こういったことが現状としてあろうかと考えております。

これを踏まえまして、課題として考えられますのが、上段の右側になります。

世代を越えて参加しやすいイベントや、ボランティア活動を通じたつながりを持つことで、区に深い愛着を持つことができる取組みを行う必要がある。

イベント開催に際して、一過性ではなく、内容を精査・整理しながら継続的に取り組むことで、区の認知度を高めていく必要がある。

区民や地域との連携を通じ、区の魅力をより高めるため、区のイメージでもある「花と緑のまち」づくりや環境に関する取組みをさらに進めていく必要がある。

イベント・事業に関する情報をさまざまな広報媒体を活用して広く発信し、区内外に向けて区の魅力をＰＲできるような取組みをより推進していく必要がある。

こういったことを課題に掲げ、今年度取組みを進めてまいりました。

それを受けまして、平成２９年度の取組みの方向性ということで考えておりますの

が下段の左側になります。

まず、1 点目、鶴見区の歴史やまちの魅力を感じ、愛着を深められる取組み。

2 点目、文化・芸術を身近に感じ、触れることのできる機会の創出。

3 点目、他課事業との連携・調整を図り、賑わいを創出し、地域の活性化を促進しながら区外にも鶴見区魅力を広める取組み。

4 点目、花と緑のまちづくりや環境活動の推進。

5 点目、区役所等の行政機関や地域などが有するさまざまな広報媒体を活用した区の魅力 P R。

これらの方向性をふまえ、平成 2 9 年度取組みとしまして、まず 1 点目、これは引き続き「発見！！つる魅力」の冊子を増刷し、転入世帯に配布する。

そして新たに、これはまだ仮称なんです、鶴見区検定の実施などを検討しております。

左右①②③④⑤という番号は連動して書かせていただいております。

2 点目、こちらは文化・芸術を身近に感じ、触れることのできる機会の創出ということで、トワイライトコンサート、これは引き続き開催をしてみたいと考えております。

あと、これもまだ仮称なんです、鶴見アートフェスタというものを文化の日前後に実施をできたらということで検討しております。

3 点目、こちらは賑わい創出、魅力発信として、今年度も実施しております T S U R U M I ウィンターフェスティバル、T S U R U M I スプリングフェスティバル、つるみワールドフェスタと楽園会議の企画イベント、そして、こちらは公園指定管理者との連携事業ですが、鶴見緑地コスプレ D a y、これらの事業については引き続き開催をしてみたいと考えております。

4 点目、種から育てる地域の花づくり活動、鶴見緑地でのホタルの幼虫放流、環境フェスタ、環境学習講座など、こちらも引き続き実施をしてみたいと考えており

ます。

広報、魅力PRに関しましては、こちらも引き続き区の広報紙、小学生向けのつるみっこだより、ホームページ、フェイスブック、各区役所や区内の商業施設、あと駅へのポスター掲出やチラシの配架、地下鉄の駅構内、車両のアナウンスなどにも積極的に取り組んでいきたいと考えております。

以上が1-1 つる魅力の創造の平成29年度の実施の方針でございます。

引き続き、経営課題の6について説明をさせていただきたいと思っております。

○西久保窓口サービス課担当係長 経営課題6の区役所力の強化という点の前半部分について、私、窓口サービス課保険年金、西久保と申します。説明をさせていただきます。

また、資料の1にお戻りをいただきまして、ページ番号4番、経営課題6 区役所力の強化ということで、戦略6-1 窓口サービスの向上ということで、めざす状態を、窓口案内や庁内環境が改善され、快適な区役所づくりが進められているという状態をめざしております。

戦略といたしましては、業務改善のプロジェクトチーム、さらには窓口サービス課市民サービス向上委員会を中心にしまして、職員が一体となって窓口サービスの改善に取り組んでいこうということでございます。

ページ番号の5番、快適な窓口サービスの提供ということで、利用者の視点に立った快適で効率的な窓口サービスの提供とともに、待ち時間の短縮、また「待たされ感」というものの軽減を図っていこうということです。

証明書の発行業務等において業務フローの見直しを行った上で、申請から発行までの時間短縮を図る。

また、混雑予想日をホームページ等に掲載することによって、窓口混雑の緩和を図る。

職員の接遇力向上をめざして、接遇研修を2回、窓口対応についての実施指導を2

回実施をしていこうと。

さらに窓口アンケートも2回実施して、結果を公表することによって啓発を図っていこうということです。

また、部署を越えまして窓口事務の連携を強化し、手続きの効率化を図っていこうということでございます。

少し上の囲みの文字にはないんですけれども、3階の窓口サービス課なんですけども、5ページの下のところに写真が2枚入っております。左側が8月末までの状態でございます、9月1日から右側の状態に改善を図っております。少し変更前の分が、全体像が見えてなくて申しわけないんですけれども、ボイスコールですね、いわゆる番号札を発券する機械がもう大分と古いものでしたので、今回新しい機種を入れていただきました。

それにあわせまして、窓口のローカウンター化ということで、1階の保健福祉センターはもう前からローカウンターやったんですけれども、保険年金の窓口はハイカウンターでずっと来ておりましたので、ローカウンター化を行いまして、座って窓口対応をさせていただくという形に変更を行ったところでございます。

続きまして、また資料の2のほうに移らせていただきます。

資料2の2枚目の裏、P2のところです。

窓口サービスの向上ということで、現状と課題は、先ほども申し上げましたように、今年度の運営方針の内容となっております。

現状、窓口アンケート結果では一定の評価はあるものの、格付けの評価にはつながっていない。

また、来庁された方々に快適にご利用いただくためには、区役所全体の接遇力の向上がより一層必要であると。

窓口アンケートでの「不満」に、待ち時間の長さということが挙げられておりまして、関係部署間での業務連携、さらにはそれぞれの窓口における事務効率の向上、市

民サービスの創意工夫が必要になっているということで、課題として、窓口サービスの向上。研修等による職員の接遇のスキルアップ。常に市民目線での窓口利用を想定した時間短縮を含めた業務改善ということを課題に挙げております。

そうした課題を受けまして、平成29年度の実施の方針としては、引き続き窓口サービスの満足度の向上をめざしていこうということと、待ち時間の短縮をめざして事務の効率化を図って、結果として待ち時間を短くしていこうという努力を引き続き追及していこうということでございます。

具体的取り組みでございますが、これまでやってきたことも含めての継続もあるわけですが、外部講師による接遇研修、窓口対応についての実地の指導。さらには窓口アンケートを公表していこうということです。

それから、窓口サービス課内の連携ということで、1階の住民情報、保険年金のところでサービス向上委員会というのはやってきた経過があるんですけれども、保健福祉センター、保健福祉課を含めた連携を平成29年度の実施の方針として広げてやっていこうというようなことを考えておるところでございます。

6-1については以上です。

○大山魅力創造課担当係長 続きまして、6-2 積極的な情報発信の推進についてご説明いたします。

資料の1のほうに戻っていただけますでしょうか。

私、大山と申します。よろしくお願いします。

めざす状態、おおむね3から5年間を念頭に設定しているものとして、必要な情報が入手できていると感じている区民を増やすことを掲げています。

また、戦略としては、広報紙、ホームページをはじめとするさまざまな広報媒体を有効に活用し、きめ細かい情報発信に努めるとしております。

続いて7ページ目をご覧ください。

さまざまな広報媒体を活用した情報発信の内容についてですけれども、区民が求め

る情報を確実にわかりやすく提供できるよう、広報紙、フェイスブック、ホームページ、広報板など、さまざまな媒体を活用し、情報発信するということで、具体的には、広報紙は毎月発行しております。ホームページ、フェイスブックによる情報発信、こちらも随時行っております。

また、鶴見区広報板というものが区内に61カ所、掲示板がございます。こちら毎月1日と、また15日と2回貼り直しを行っております。

また、小学校を通じたイベントや区政情報等の発信、こちらは「つるみっ子だよ」というA4判の広報のチラシをつくっております、夏休み中の8月を除く毎月、年間11回発行しております。

次に、地域課題解決型広報紙配布業務の実施。地域課題解決型とはどういうことかと申しますと、広報紙自体が今、全戸配布をしておりますので、全戸配布という強みを生かして、地域の中で、配布をしている配布員が同時に見守りを行うということを行っております。

また、それぞれの地域が発行しておられます広報紙も区役所の広報紙に挟み込みを行いまして、同時にご自宅にお届けしております。こちらを今年から始めました。

では、続いて資料2のほうの説明をいたします。

資料2をご覧くださいませでしょうか。

こちらの6-2 積極的な情報発信の推進、3ページ目をご覧ください。

上段の現状と課題についてですけれども、こちら平成28年度運営方針の内容になっておりますが、現状は、広報紙やホームページ、フェイスブック、広報板などの媒体により区民に情報発信を行っているが、区民に必要な情報が十分に届いているとは言えない状況にあるとしております。

昨年度の区民アンケートにおきましては、必要としている区政情報が入手できていますかという質問をしたところ、入手できているとお答えいただいた方が73.9%ございました。まだ届いていないとご回答いただいている方がおられますので、さら

に充実を図っていかなければならないと考えております。

そちらが上段右側の課題として掲げております。広報媒体の有効活用と内容の充実を図り、情報を積極的に発信していく必要があるとしております。

それを踏まえて、平成29年度の実施の方針としては、区民が求める情報を確実にわかりやすく提供できるよう、広報紙、フェイスブック、ホームページ、広報板などさまざまな媒体を活用し、情報発信する。

また、引き続き広報紙の全戸配布を生かした地域課題解決に向けた取り組みを行うとしております。

具体的にこの取り組みについて説明させていただきます。

まず、全戸配布しておりますので、ご自宅には必ず区の広報紙は届いているはずですが、やはり関心がないとページをめくっていただくことも見ていただくこともないと思いますので、内容の充実を図るために区民の関心が高い記事、デザイン、ページ構成などについてもより充実を図って、手に取ってもらい、読んでもらえる広報紙となるように内容の充実を図っていきたいと思っております。

また、ホームページにつきましては、来年の1月にリニューアルを行います。現在のホームページは、トップページがいろいろごちゃごちゃと表示されていますので、少し検索しにくい状態です。

また、区役所の組織が十分わかっているのであればすぐに検索できますが、組織ごとに分類表示されていますので、これを発信者側ではなくて、アクセスされる側、訪問者側に立った分類を行うことで、よりホームページの内容、アクセス、検索しやすい内容になるように、今、分類の仕方や内容を改善していったところなんです。

続いて、フェイスブックにより、区政を身近に感じてもらうように発信内容の充実を図るとしてあります。こちらは、それぞれの担当課がいろいろな情報発信をしておりますが、ホームページや広報紙よりも、もっと身近な感じで親しみがわくような形で情報発信ができるように、区役所の職員向けに私たちもいろいろ意識を高めるよ

うな工夫・取組みを行っているところです。「コウホウ通信」というものを毎月、全職員向けに配信しておりますが、どうやったら区民の皆さんがフェイスブックに関心を持っていただけるのかということ、発信する職員に考えてもらえるようにしております。

また、鶴見区広報板の掲示板、こちらも引き続き行っております。

小学校を通じたイベント・区政情報等の発信も行っていきたいと思っています。

また、先ほど申し上げました地域課題解決型の配布、見守りを兼ねた広報紙の配布事業、また、その次の各地域発行の広報紙配布についても、配布の事業者を公募にかけて選定するのですが、事業者のほうから提案を広く募って、最もふさわしい形で広報紙の配布をしていきたいと考えております。

また、マスコットキャラクター着ぐるみの機能的改良。こちらは平成20年につるりっぷというキャラクターができましたけれども、着ぐるみがちょっと動きづらいような形態になっておりますので、また動きやすい形で改善して、修繕なり製作なりを行いたいと思っております。

以上です。

○佐々木委員 ありがとうございます。今の説明へのご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。何かご意見。

○木村委員 今までのやつ全部。

○佐々木委員 全部です。

○柴田委員 このキャラクターの着ぐるみは、長年使ってクリーニングとかしていますか。

○大山魅力創造課担当係長 はい。大体、毎年1年に1回はするようにしております。

あと、使い終わった後は汗をかいたりしますので、消臭のスプレーをかけたり、汚れをふいたりしています。

○柴田委員 かなり厳しかった。

○萩副区長 盆踊りのときもそうでしたね。かなり頭が重たいんです。だから動きづらいのですね。

○柴田委員 地域に来てもらってかなり厳しかった。

○萩副区長 くまもんが異様にはしゃいでましたんで余計。

○柴田委員 一応してくれてはるねんね。

○木村委員 中身は動きやすいやつと動きにくいのが。どっちかと言うたら、動きにくいもんね、これは。

○萩副区長 もうちょっと軽くした方がいいですね。

○木村委員 細かい表現ができないわね、これは。

○萩副区長 そうですね。

○木村委員 これって家族あるでしょう。

○萩副区長 ありますね。

○木村委員 家族があるということをもうちょっとアピールできないか、小さい子どもがいているでしょう、これ。

○萩副区長 いますね。おばあちゃんもおじいちゃんも。

○木村委員 おじいちゃん、おばあちゃんまで全部言うたら無理やろうけれども、今1個でしょう、要するに。いろいろやるのに家族も一緒に活用できたらよいのでは。

○河村区長 こんな感じでね。

○木村委員 そうそう。そういう使い方ちょっとできませんのかな。僕はあれ、かわいいなと思っているんですよ、ざっと並んでんのね。

○河村区長 いろんな場面では使ってはいるんですけどね。

○木村委員 いてるんですか。

○河村区長 ええ。

○木村委員 いてるんですか、あの小さいの。

○河村区長 着ぐるみですか。

○木村委員 着ぐるみでぱっと並んで家族がね、手つないでというのもね。

○萩副区長 小学生に入ってもらいましょうか。

○木村委員 そうそう、小さいやつはね。

○佐々木委員 またそれも楽しみと違うかな、子どもたちはまた。

○木村委員 そうすると、ほんわかした雰囲気が出てくると違うかなと思ったりもするんやけどね。

○猿渡委員 よろしいですか。鶴見区検定っていうのが出てきて、何か時代の潮流に非常に乗っているなと思うんですけど、テストですよ。

○大川魅力創造課担当係長 はい、そうです。「発見！！つる魅力」を発行させていただきましたので、その内容を使って検定という名の。

○猿渡委員 非常にいいと思います。

○萩副区長 実は、今年の区民アンケートの中に意見としてあったんですよ。検定やってはどうですかと。せっかくあの歴史本を出したんで、それにかこつけてやったらどうかという意見があったんで、ちょっと乗ったんですけどもね。

○猿渡委員 基本、平日、小学生を相手にしているものですから、小学校の高学年あたりでチャレンジができると、ものすごくいい。僕、やっぱり子どもたちに育てたいものの1つに愛着というのがあるんですね。決してそれまでそういうことを考えている人間ではなかったんですが、住んでいる地域であったりとか、使わせていただいている公園であったりとか、関わられる皆さんに対して、ある程度愛着を持って育っていくことというのは、結果から言うと、悪かろうはずがないと思っているわけです。

そういうところで、知識の知の部分で、漢字がある程度読めればチャレンジできるとかというような余地があれば、僕けしかけたいなと思うんですね。高学年やったら知っているところの話で言うたら、もうそれで何かしら合格者としてバッジなり賞状なり何か与えられるのであれば、中学生はわかんないです、でも、小学生はやる子お

るなって思うんですよ。非常に魅力があると言うか。そのことを通じて、一生懸命勉強すると思うんです。勤勉な子は多いですよ。なので一生懸命、鶴見区のことを、いろんな習い事で忙しい中、子どもが勉強しているというのは、それをけしかけるということは僕もやらなアカンんですけど、美しいと言うか、おもしろい図だなと。鶴見区のことを必死に勉強している小学生の姿がぽっと今、絵でこれを読んだときに浮かんだんですよ。これはすごくおもしろいんじゃないかなんかというのを思いました。

○萩副区長 階層で分けても面白いですよ、シニア層とか、ジュニア層とかね。

○猿渡委員 そうですね。小学生、鶴見区名人じゃないですけど、何か称号があったりとかね、すると、今の子どもたち、コレクション癖というのはある程度持っていますので、中学生になっても受けに行こうかなってというような、数は減ったとしてもおったりすれば、行く行くは地域に対して知識を持つということは、やっぱりそれは愛着やと思うんでね。社会科の勉強ではない、生きた地域に出た形での学習、わがまち探検だけではない学習の1つではなかろうかなと。恐らく2年生、3年生で先生につれられて近所をうろうろした子たちが、高学年になってはうろうろせんだろうと僕は思うんです。その1つにつながれば非常におもしろいんじゃないかなと。ぜひやっていただきたいと言うか、関わらせていただいて、何か問題を考えて何とかね、いろいろ思うんです。進めていただきたいなと思います。

次にすみません、もう1つ、広報についてなんですけども、73.9%は届いているという実感を僕は非常に高いと感じました。非常によくやっておられるからこの結果なんだろうというふうに思うんですが、ちょうど今月です。こども食堂の取組みでシンポジウム的な、区役所でやられるっていうのを、委員用のチラシを送っていただく分で僕、知りまして、求めれば当たるんやなと思ったんですよ。というのは、今ちょうどそういう勉強をやれやれと仕事のほうで言われておりまして、チャンスをとらまえてそういう学習をしていこうと思っているところに入ってきたわけですね。残りの26.1%の方々に求める気持ちと言うか、区からの情報を、言うたら受信するア

ンテナは立っとなのかなというのを1つ思ったのと、後で言われていましたけど、内容の充実というところで、いかに関心事を拾い集めるかのリサーチ力みたいなところが恐らくここは問われるのかな。

それから、求められる情報を提供できる内容を考えていく方向を詰めていったほうが、恐らく広報を詰めるより非常に行き渡り率が高い気はすごくするんですね。なので、求めているものを、それこそ区に対しての関心であったり、本当に目につく形での取組みであったりとか、広く周知されていることというのが、もう基本中の基本と言うか、原則にありそうな気が、この中身はしました。

はい、すみません、以上です。

○木村委員 今、全戸配布してるけども、実際にちゃんと見てくれてんのかというようなところがありますよね。それをなかなか確認するのは難しいですよね。

ここの鶴見区には、安全見守りのパトカーがありますね。もうそのことだけしか放送してないのと違いますか。要するにひったくり防止とか、そのことに関してのテープでしょう、あれずっと。一遍これ、例えば、皆さん広報紙全戸配布しているけども、皆さん広報紙、大事なこと書いている、いいことも書いているんですけど、見ていますかとかというような、そういうようなアピールをこれで流すのはどうですか。

○河村区長 それは絶対いけると思います。

○猿渡委員 配布したあたりですよ。

○木村委員 そうそうそう、配布してね、それで、カラーで見やすい広報紙が皆さんのお宅へ届いていると思うんですけども、ちゃんと見ていますか、大事なこと書いているんですけどというようなね。

○河村区長 そうですね。イベントやるときとかは、やっているんですけど、警察への届けは要んですけどね、おっしゃるようななんもやってみればいいと思いますね。

○木村委員 例えば「私、つるりっぷです」ということで、皆さん見てくれてますかというふうな、そういうことをちょっと流してもいいと思います。あれ同じこと

をずっとやっていますけども、あれはあれでね、僕は効果あると思います。我々が回っている中、また、晩遅くも回ってくれているんで、それはそれで効果あると思うんですけどね。月に何回かテープ入れて、だっと流してもらったらええです、もうちょっとボリューム上げて。たとえば、つるりっぷちゃんからのお願いですって。そういうようなことをしないと、そやそや広報紙来てるんかなというて見てくれるかもわからん。

○河村区長 いつも聞いていたらそれなりに。

○木村委員 そうそう。そんなね。そういうようなこととしてもええんかなというふうに思いますね。

○猿渡委員 小学生はあの文句、全部覚えていますからね。

○木村委員 ああ、そうですね。

○猿渡委員 そらで言えますよ、彼らは。すごいなと思いますね。青いの来たと言うて、同じように言える、合わせてね。余り言うな、邪魔になるからって言うんですけど。

○木村委員 つるりっぷちゃんの広報車ですというて、そのときはちょっとあそこ模様入れて。

○佐々木委員 車にぺたっと貼りつけてね。

○河村区長 キャッチができたらね。

○佐々木委員 それやったらちょっと暗いときより明るいほうが見えるからね。夕方とか。

○木村委員 それでもう1つよろしい。窓口サービスというのはね、正直、我々は中身わかりませんもんね、仕事の内容が。だから待つ時間とか、そなん、私も時々行きますけども、そら待ってる時間もあるんですけども、それが長いかどうかというのはちょっとわかりませんもんね。ほんで、やっぱりそれだけの時間がかかるんかなというふうには思うんですけどね。

役所へはしょっちゅう足を運んできていて、ずっと見るんですけどね、窓口の人の接し方、ものすごい変わっている、もうそら最初のころから思ったらものすごい変わってきたなというふうには、私は受け取っておりますねん。だからものすごい努力してんねやな、物の言い方でもね、努力しているんやなというように。今まで最初のころはやっぱり笑顔はあれへんしね、言うようなところがありましたけど、やっぱり言葉の使い方がものすごいね、上手になっているなというように思いますね。

○佐々木委員　私もやっぱりそれは同じやと思います。それはね、随分変わりはったと思いますね。

○木村委員　だから中身に関して、講師に来てもらうとかなんとかと書いていますやんか、これはどういう方を招くような。

○萩副区長　今ちょうどやってもらっている最中。

○木村委員　やっぱり民間の会社か何かの。

○石川総務課担当係長　今年は、元キャビンアテンダントをされていた方に来ていただいて、どのようなしゃべり方をすれば気持ちよく受け取れるのかというようなことを実技研修で実施いたしました。

○河村区長　おはようございますでも言い方があるらしいです。

○萩副区長　話すときに笑顔がないとかね、そういうところまで指導してくれて。

○木村委員　なるほどね。そうですね。僕はものすごい変わってきたなと思っています。はい。

それから、緑地のイベントのこれ、ここに書いていましたように、区民のニーズの高いイベントを開催するというで、緑地を活用したいとか書いていますけれども、ついこないだ、東京のテレビが緑地の国際庭園を取り上げていましたね。東京のテレビが。びっくりしましたね。あれはどういういきさつで流れたんでしょうね。1回だけでしょうね、あれは。あんなもん継続してやることはないと思うんですけど、何であんなんやったんかいなと思って。いや、それはもうそれでよろしいねん。たまたまあ

んなん見て私びっくりしたんで。

それと、緑地のイベントに関して、これ、いろいろとニーズが高いイベントと言うんですけども、建設局があるでしょう。公園事務所もいてますよね。僕ちょっとイベントやりましたやんか、大変苦労したというところがありますんでね、あの辺のあの人たちは管理してんねんけど、区民の皆さんに鶴見緑地を楽しんでもらうという感覚はありませんのか、正直。

やっぱりね、せっかく万博もまたやるとかいうていろいろ候補は挙がるんですけどね、なかなかやっぱり鶴見緑地がやると思ってもそんな段階には行かんのと違うかいなと思いますね。もっともっとやっぱり区民、鶴見区民だけじゃないけど、あそこはね、守口もいてるし、門真もいてるし、東大阪も来るやろしね。そういうところから考えると、もっともっと前向きにいかないと。

僕、遊ぶだけ遊ばせてくれと言うてると違うんですよ。もちろん我々もちゃんと使ったものはきれいにして掃除をするというのは、これもう今の時代、当たり前ですよ。公園も特にそうですやん。だからそういうことをちゃんと我々がやっていこうと思ってんのに、そういうところへはなかなかいけないということありませんか、今の緑地。それ、もうちょっと何とかならんもんな。

○河村区長　もちろん建設局もそうですし、指定管理者のスマイル5もそうですし、またそこに僕ら区役所がどうかんでいくかというのもあるんですけども、ただ、おっしゃるように、今の維持管理みたいなことがやっぱりメインで、活用しようとか、新しいことをやっていく、そういうのは少し欠けますかね。

○木村委員　それをしてもらわないと、なかなかあそこへ区民とか市民が集まることができないですよ。まだ正直言うて、鶴見区民はお人がええと思いますよ。あの状況でまだ向こう行くんやから。もっともっと、本当に開放してもらおうという状況にならないと、なかなかここに書いているええことも、そのとおりにいかへんようなどころがあるんです。

本当にせっかくええ博覧会やってええ土地があるのに。南港の方は南港の方でどんないろんなもんやっていっていますやんか。

そやから、やっぱり鶴見緑地は鶴見緑地でまたこんなができるんやというね、ちょっとやっぱり特徴を出していかないかんと思うんですけどね。やれるところは。そう思います。

○田中（潔）委員　鶴見緑地はどこの管轄になるんですか。そういう、いわゆる公園事務局とか。

○萩副区長　建設局ですね。

○田中（潔）委員　建設局になるんですか。

○河村区長　建設局の中にそういう公園管理の部門がありましてね。

○田中（潔）委員　あるんですか。全体としては大阪市がやっぱり責任持っているわけですか。

○猿渡委員　区民まつりがすごい盛況で、僕は驚いたんですけども、子どもつれて嫁つれてというような形で行かせていただいたら、行きかうのも大変なぐらいの人で、すごいなと。ただただ驚き圧倒されました。

○木村委員　それはそのとおりですよ。もうほんまにね、あれだけは僕は何回も言うてるんですけど、区民まつりね、あんなところでできるのは鶴見区だけしかないんですから。よそは、隣の城東区だって公園でやっているんですからね。

○大川魅力創造課担当係長　普通の規模の。

○佐々木委員　城東公園。

○河村区長　グラウンドみたいなところ。

○大川魅力創造課担当係長　まちの公園とかで。

○猿渡委員　城東公園ですか。

○河村区長　蒲生公園です。

○猿渡委員　蒲生グラウンドのあのかいわいですか。

○木村委員 なかなかあんなとこでやってんのは、24区あるけど鶴見区だけです
から。

○猿渡委員 もう驚きましたね。

○木村委員 だから鶴見区でやっている人は、それがわからんもんね。あれが当たり
前やと思っているかわからへん。そんなんよそへ出たらあれへんもんね。

○猿渡委員 まあまあ端っこまで行って帰ろうかぐらいのなめた感じで行って、結
構端まで大分あるなみたいな。

○木村委員 もう恵まれていますわ。

○猿渡委員 いや、すごいと思いました。本当にあれは大きいお祭りなんやなって
感じがすごくしましたね。子どもたちがパレードに出るから来てくれとか誘ってくれ
るんですよ。本当になかなかタイミングが合わなかったんですけど、今回行って、そ
れこそみんながおっしゃったようにすごいと思いました。ご苦労もあるんでしょうね、
きっと。僕は行って、わあって言って帰ってくるだけですけど。本当にお疲れさまで
ございました。

○大川魅力創造課担当係長 なかなか、公園の管理上の権限ですとか、そういった
ところで区が直接口出しできない部分とかもあって、できること、できないこととい
うのが出てくるかと思うんですが、せっかく鶴見区にある公園ですし、区民の皆さん
に愛着も持っていただきたいし、もっともっと広く、鶴見緑地、こんないいところな
んだよって発信もしていきたいし、それを何か1つでも区で担えないかというところ
で、やっぱり緑地を活用したイベントというのを考えていく必要があるのかなとは思
っているんですね。

その中で、公園の指定管理者とか建設局、公園事務所とも、区としてもいろいろ連
携を図りながら、大きなものを何か一緒にやっていくというようなスタンスをともに
持てるような取組みをしていきたいなとずっと考えていまして、イベントを開催する
ことで少しずつ距離を縮めたいと思ってやってきてはいるんですが、一足飛びにやっ

ぱり行けなくて、もどかしいところもあるんですが。

○柴田委員 緑地は鶴見区が自由に使えるの。

○大川魅力創造課担当係長 同じ大阪市同士ですが、許可はもらわないとだめなんです。区の主催のイベントということは、それなりに区民の皆様のために開催をさせていただくという目的がありますから、許可はもらえるんですが。

○柴田委員 国際の建物なんかがあって、ニュースで外に出ていますけど、ああいうところもボランティアでちょっとは手伝えるような、使うばかりじゃなくって、そういうふうなね、草なんかすごいですもんね。

○大川魅力創造課担当係長 取組みの中にそんなことも入れていければ。

○柴田委員 入り口だけいつも掃除とかしますけどね。

○大川魅力創造課担当係長 そうですね、奥の方までって、なかなかやっぱり難しいですね。だから、そういう取組みもいろいろ考えていく中で、区民の皆さんとか、訪れていただく皆さんと何か協力し合いながら、公園がよくなっていくようなことを試みていけたらと思うんです。

そういうところを、こんなことをしてみたらどうかなとか、こういう取組みいいんとか、もし委員の皆さんで何か思いついていただくことがあれば、教えていただけるとすごくありがたいです。私たちも私たちなりに、いろいろこうやってみよう、ああやってみよう考えるんですが、その辺、お知恵をいただけると大変ありがたいなと思うんですが。

○猿渡委員 先週はあれですね、世界心臓何とかデーの、大きな。

○大川魅力創造課担当係長 ワールド・ハート・デー。

○猿渡委員 ああ、ワールド・ハート・デーって言っていましたね。

○大川魅力創造課担当係長 あれも毎年やっていますよね。

○猿渡委員 あれもまた人数の多さに驚きまして。

○大川魅力創造課担当係長 あれは咲くやこの花館、指定管理者が共催として加わ

ってやっているイベントです。

○猿渡委員　　ずっとマラソンしてはるんですよ、老若男女が。驚くほどの人が集ま
っていて、あれ、全国から来てるんですかね。

○大川魅力創造課担当係長　　どうなのでしょうね。

○猿渡委員　　結構、色とりどりの方言が聞こえていまして、ああ、これ大阪だけじ
ゃないのかなと。ただ、人数が物すごくて、大芝生の鉄塔あたりに集合、受付券とか
何かがあったんですけど、大芝生から人があふれ出ていて、何事っていう感じやった
ですね。で、ずっと心拍数を図る検査のブースとかがズラーって並んでたり。

○萩副区長　　やっていましたね、テレビでもね。

○猿渡委員　　えーって思いながら、ただ我々は公園に遊びに行っただけやったんで
すけど。大分、広い面積を使って、走られたり何かってしていましたね。

○木村委員　　公園事務所がかかわっているんやけど、N P Oかどっかがやっている
の。

○大川魅力創造課担当係長　　N P Oが主催で指定管理者が共催で加わっているイベ
ントです。場所が鶴見緑地なので。指定管理者も指定管理者なりに、何かをと思って
取り組んではいるんでしょうけど、やっぱり管理上のこととか費用的なこととか、い
ろんな問題があるみたいで、そこはやっぱりクリアしていく術と一緒に知恵を出し合
いながら、考えていけたらと思うんですけどね。

○佐々木委員　　一時のことを思ったらイベントがたくさん増えましたね。今までは
閑散としていたところがありましたけどね、私らも近くで、人の財産やけど、鶴見の
財産みたいなもんですよってね、うまく利用できたら。今、木村会長が言われるよう
に、もうちょっとうまく、やわらかくできたらいいんじゃないかなと思います。

○田中（潔）委員　　鶴見緑地は区の行事だけじゃなくて、私もいろいろよく行くん
ですけど、高校生のマラソン大会とかね。あれもすごいですね。高校対抗、大阪府下
全部の高校生が。

○大川魅力創造課担当係長 マラソン大会もやっていますね。

○田中（潔）委員 マラソン大会かな、あれ。リレーでつないでいくんやね、男の子、女の子と。

○猿渡委員 駅伝みたいなもんですか。

○田中（潔）委員 駅伝。だから、学校対抗になっているから、その応援がすごい。ああいうのは区はタッチしていないと思うんですけど、ああいう行事とかね、今のそういう健康の行事とか、すごいですね。

○猿渡委員 アップダウンがあるから、しんどいでしょうね。あそこ走るって。

○大川魅力創造課担当係長 大変です。端から端まで行くと。

○猿渡委員 並大抵じゃないですよ。

○大川魅力創造課担当係長 はい、大変だと思いますね。

○木村委員 今、言うところやつはあれ、正月のやつ。そういうのを別個にやってるの、それは。

○大川魅力創造課担当係長 高校が独自でやっていたりとか。

○田中（潔）委員 私学も公立も入っている。

○萩副区長 あと、有料でマラソンをやっているやつもありますね。お金とってね。

○柴田委員 雨で流れました。娘が出ると言ってましたが。

○萩副区長 流れましたか。ああ、そこは知らなかった。

○田中（潔）委員 それとちょっといいですか。資料2の2ページの右下のところに（仮）と書いているんやけど、鶴見アートフェスタっていう、こういうものを計画なさっているんですか。音楽コンサートというのは。

○大川魅力創造課担当係長 音楽と、あとはいろいろ芸術的な分野で活動されている区内のアーティストさんがいらっしゃると思うので、そういう方たちの芸術作品などを発信できる機会をつくりたいなというのと、そういうものを身近に区民の皆さんに感じていただける機会も提供できたらなという。文化とか芸術を育んでいく土壌づ

くりというか、そういうきっかけを少し作ってみたいなという思いがありまして、何かそういう仕掛けができないかなと。

○柴田委員 例えばどういうもの。

○大川魅力創造課担当係長 区内に今、楽園会議というボランティアの皆さん、集まっていてイベントを企画をもしているメンバーさんの中にも、炭アートやステンドグラスのアーティストさんがいらっしゃるんですね、実際。区内にきつともっと、他にもそういう方、写真だったり、書だったり、絵だったり、いろいろいらっしゃると思うんですね。そういう方たちの作品をぜひ皆さんに見ていただけるような発信の機会をつくりたいなというのと、身近にそういうのを感じることができたら、親しみも湧くでしょうし、刺激も感じるでしょうし、区全体で文化とか芸術を大切にできるような機会をつくれたらと思ひまして。そこにコンサートも。トワイライトコンサートを毎月開催していますので、その出演者の方々が一堂に会したコンサートとアートの展示みたいなものを一緒にしたフェスタを、文化の日あたりにできたらいいかなとか思っております。

○田中（潔）委員 盛り上がると思いますよ。

○大川魅力創造課担当係長 そうですね、やってみたいと思います。

○田中（潔）委員 トワイライトコンサートも熱心にやっておられますよね。その発展形になるわけですね。いろいろ行事を企画していただいています、私もできるだけウォッチャーとして、顔を出しているだけですけれど、させてもらっているんですけれど、いろんな行事の中でオープニングのときに、歌手というか、ああいう人らが熱唱してくれたら、ぐっと盛り上がりますね。だから、いろんな行事でオープニングのときに、何かそういうものをパッと入れてあげたら、全体が明るくなるというか、盛り上がるような気がするんですね、これはいいなと思いますね。例えば、全然、例えが間違っているかもわかりませんが、認知症の講演をするとして、そんなときに歌を歌えるのかわかりませんが、何かかたい話の中にポッと入れてあげるとか、何か

オープニングのときにやったら。いろいろありますよね、これから行事をされる、計画されているんでね、子どもフェスタとかいろいろ。そういうオープニングのときにパッと出ていただいたらね。せっかく上手な、一生懸命練習しておられる、トワイライトコンサートでやっておられる人らにちょっと出ていただいたら。こういう祭りとかね、オープニングのときに。そんなことを思います。

○大川魅力創造課担当係長 ありがとうございます。

○田中（潔）委員 それからもう1つ。さっきのつけ足しみたいになりまして申しわけないです、猿渡さんのお話、鶴見検定をやるという。そのあれとして、「発見！！つる魅力」の冊子、これ、なかなかよくできていて、私は69年も住んでおるんですけど、あれでいろいろ勉強させてもらいまして、いい冊子やと評価しますんですけど、さらに評価したのはね、鶴見小学校の井上校長先生がつくってくれましたよね。恐らくあれを元資料にしてつくってくれたんだと思うんですけど、今さっきの子ども検定、あれを読んで勉強したら、結構ええ点がとれるんじゃないかなと。やっぱり、ああいうペアでつくってあげたというのは、井上先生の努力やと思うんですけど、よかったと。冊子ができただけで喜ぶんやなくて、やっぱり子ども向けのそういうのをつくるのもよかったと思います。えらいちょっとすいません。

○大川魅力創造課担当係長 ありがとうございます。ほかに、何かありましたら。

○佐々木委員 全然ちょっと話が変わりますが、よろしいですか。広報、要するにいろんな魅力について、1ページのところにありますが、区の歴史やまちの魅力について触れる機会が少ない区民（特に転入者や子育て世帯）に、と指定されていますけど、転入者が入ってこられたりしたとき、そういう手続にみえますやろ、窓口へ。そのときに何か、鶴見区ではこういうことをやっていますよとか、いろんな冊子とか毎月の広報紙とか、これはこうやっています、こんなんやります、おたくはどこの地域ですか、そしたらおたくやったら、小さい子どもさんが転入で入っていたら、こういう子育て情報もありますとか、そういうような、何かそういう説明あります。

何かで、窓口のところで。

○大川魅力創造課担当係長 それぞれの、その方に関係のある部署では、必要な説明はさせていただいていると思うんですが、例えば「発見！！つる魅力」は、転入届けをなさった世帯には必ずお渡ししています。あと、いろいろ生活にまつわる必要な情報に関しては、一応転入セットということで、つるりっぷ柄のバッグに必要な資料を全て入れてお渡しするという形で、情報提供はしています。

○佐々木委員 そうされてるんですね。それやったら、広報紙でももらっていたら、ああ、あれがこうまわってきてんなということもわかりますし。転入された時は、来たところですって、何もわかりませんねんという人がやっぱりいらっしゃるので、窓口のところでどうされているのかなとふと思ったんですけど、そうしてされていたら大分に喜んでもらえるんじゃない。そして今のつくったいろんな冊子とかあんなも、そのとき同時に渡して、関心を持ってももらえるんじゃないかなと。

○河村区長 なかなか全員にやるのは難しいかもしれませんが、例えばおたくが今度住みはるところはこんなところでとか、こんないろんなところがあってとかいうのを、もし言えるんやったら、もっといいと思いますけどね。

○佐々木委員 そうそう。そんな人らに窓口のところで手が空いていたら、ちょっとおたく、転入者の方ですか、こうこうですねっていうような話を身近にしてあげると、すごい鶴見に来てよかったなっていう親近感が持てるんじゃないかなと思います。

○木村委員 もう一つ、よろしい。広報のほうで、地域課題解決型広報紙の配布ということでいろいろやっていますよね。実際にポスティングして行って、例えばここに新聞紙がずっとたまっているわとか、そういう具体的な事例が出たということありますの。

○萩副区長 現在はないんです。というのは、業者と話し合いをするんですけど、ちょっとうまく回っていませんでね。こんなことを言ったらみんなに煙たがられへんかなとか、そんなことを業者さんは思うみたいでね。ではなくて、少しでも何か

気がついたら全部教えてねと、今、軌道修正をしている最中で。もうちょっと時間がかかるかもしれませんが。

○木村委員 いらん告げ口をされたということもあるんで、かえって困るのかな。

○萩副区長 かえって業者はそんな意識を持っているみたいでね。変えてもらわな。

○木村委員 でもね、実際にはうちらでも、ふれあい員さんね、結構小まめに回ってやっているんですけど、やっぱりいまだに孤独死はありますねん。だから、こういうので回っていっておかしいなと思ったら、新聞が入らへんやんかとかいうような、住んでいるのか、と感じられたら、こんなんでも報告してもらったら。

○萩副区長 どんなことでもいいから、少しでもサインが出ていたら、それを教えてくれということを、今、一生懸命やっている最中です。

○木村委員 気づきで防げる場合もありますしね。そういうことでお聞きしたんです、すいません。

○猿渡委員 お二方のお話を伺っていると、いい意味で、区の例えば窓口だったりとかそういう業者さんであったりとか、少しおせっかいなぐらいがちょうどええんかなと思いながら、今。うっとうしがられる一步手前が、多分おせっかいのギリギリのラインやろうなと。

○萩副区長 難しいですね、それは。

○猿渡委員 思うんですよ、例えば転入された方に、おたくの住んでいる地域はって説明しようとして、いや聞いてへんねんって言われたら、あーってなりますけど。でもそのギリギリのところで、こういう地域ですよ、鶴見緑地近いですね、その地域は、とかでも先に入っている情報であったとしても、何か口添えというか、知っていますねん、一応っていう感じでアプローチされたら、喜ばれる方は結構多いんちがうかなって思うんですよ。

○佐々木委員 おせっかいおばさんみたいなものですけどね。でも、やっぱり私ら日常茶飯事で、身近な人にもそういうふうにアタックしていくというか、あっち向い

ている人をいかにこっちに向かせるかというのが、私たちの仕事なんですよ、日ごろから。だから、どうしたらあっち向いている人をこっち向かせられるのかなと、いつでも思っていますよってね。鶴見区に入ってきたら、1人でも2人でも、そうなたたらしいのと違うかなって思ったんです。

○猿渡委員 でも、今、原点回帰じゃないですけど、おせっかいというキーワードを、この1カ月、何遍聞いたかわからないですよ。

例えば、虐待のシンポジウムに出るとね、いろんな組織が虐待を少なくしよう、防止しよう、なくそうって頑張っているんです。いろんな機関が動いているんです。動いている人間の数も半端ない人数やと思っているんですけど、結局、動機はちょっとしたおせっかいからじゃないと、家庭という場所に入っていけない。だから、やっぱりちょっとおせっかいぐらいでちょうどええんやわって、皆さん言うてはる。

今度はこども食堂であつたりとか、食の貧困や子どもたちの生活を支えていくこと、経済的な部分からも支えていこうというシンポジウムに行きますと、きっかけはと皆さん聞かれて、おせっかいからですって言わはるんですよ。

だから、おたくはおたくでよそはよそ、うちはうちってやりながら、結局、答えがそこにしかなかったのかなと、ぐるっと一周回って元に戻ったん違うんかなと思う場面がえらく多くて。おっしゃっていることが多分、正解なんだろうなと思いながら伺っていたんです。

窓口の業務1つ、本当に大変やし、どこで怒られるかわからへんのですけど、でもそのギリギリのあたりに答えがあるんやろうなと、すごく。新聞がたまっているのも、その人はためているかもわからへんのやけど、入れるのがおっくうなだけかもわからへんねんけど、それがもし1つの命を救うことになったら、ものすごく尊いおせっかいになるじゃないですか。元気にしているのに、いらんことすなって怒られる可能性も、結構フィフティ・フィフティぐらいにあるとは思いますが、その一步を踏み出すか踏み出さんかで助かる命があるって考えたら、むげにできないおせっかいやと

思うんですよね。

○大川魅力創造課担当係長 きっと地域の皆さんで、そういう支え合いとかいうことを常に考えていらっしゃると思うんですよね。

自分も地元での生活を考えた時に、昔、子どもの頃は、母とかがそういうおせっかいを焼くと、もう、何でお母さん、そんなんすんのって思ったんですけど、今、自分がその歳になってみると、やっぱり隣のおばあちゃんが買い物に行きはるの困ってはると思ったら、何か買ってこようかと声かけてみたりとか、この前の部会の時も言わせてもらったんですけど、役所がやっている何かの行事に自分も行くときは乗せていってあげようとか、そんなおせっかいをしている自分がいて。自然にそういうのができる年齢になったんだなとしみじみ思ったりしつつ、やっぱりそういうので隣近所のつながりができたりとかあるのかなという気がするんですよね。だから、区役所も何かそういうところの一翼を担えたらみたいなところはありますよね。

○佐々木委員 待つ時間が長いなとか思ってはる人が、もしそんなんあったらね、気をまぎらわせられたり。待ってはる時間にちょっと説明というふうなね。

○大川魅力創造課担当係長 聞きたい方もいらっしゃるかもしれないですよね。よく1階の総合案内にお昼休み、交代で魅力創造課の職員が立つんですけど、その時に、やっぱり住民情報の窓口は忙しいので、なかなか聞けないんだと思うんです。で、総合案内に転入セットを下げてる方が来られて、これはどうなの、あれはどうなのとか、ごみの日はいつかなとか、結構いろいろ聞かれることがあるんです。そういうときに、転入してこられた方は、新しい地での生活がやっぱり不安だったり、いろんな情報を知らないとたちまち困るからと、情報を求めておられるんだなというのは肌身で感じるところがあるので、必要な人に必要な情報を提供できるようにというのは、今ふと感じましたね。

地域でも何かそういうのはやっぱりされていますか。転入してこられた方へのアプローチとともに。

○佐々木委員　そうですね。結局ネットワークなんかはまさにそれでね。なんぼ言うてもパッと行ったら扉を閉めてしまう人もいます。でも、それを何遍も繰り返したり、たまたま道で会ったら声をかけたりして。そういうふうな人を引っ張り出すのはほんまに大変ですけど、一人でも引っ張り出したら、ああ、よかったと。やっぱり、達成感と言ったらおかしいですけど、本当に日ごろからふれあい喫茶とかしていますけどね、出てくる顔ぶれはほとんど一緒なんです。でも、たまにそんなところで声かけして、買い物をしてはるときにちょっと荷物を持ってあげて、こうこうでねとか言っておしゃべりもして。そんな人らがのぞきに來てくれたら、いやあ、來てくれはった、よかったと。しょっちゅうその人のそばに寄って、話をしたりしてね。

本当に地道な、一人一人が大切やと思うんですよ。だから、形を決めてしまってね、わあっとやったからといって、なかなかものにならないと思います。だから、みんなですできるだけそのように心がけてしているんですけどね。何か、話がちょっと。

○大川魅力創造課担当係長　大事なことですから。

○田中（潔）委員　新しく來られて町会に入ってもらおうとすると、うちはもうええねんと拒否する人もいます。町会費って年間3,600円払ってもらうんやけど、やっぱり入ってもらわないとね。そやけど、子どもさんがおったらやっぱり入らはるね。子どもと一緒に子ども会に入れないから。

○佐々木委員　子どものお世話をするのが嫌やから、子どもを子ども会に入れないというところもあるんですよ。子どもたちはかわいそうですよ。みんなが今日は何々って言ってるのにね。それで自然と、子どもに流されて、親もそっちのほうに流れていくこともありますけどね。極端な話、そういうところもありますね。特に団地の、マンションなんかの人は、そういう近所のかかわり合いが嫌やから、このマンションに住んでいるのにという感じで。でも、いざやったら防災訓練やら何やら、皆やっぱり必要ですやん。そこだけしないというわけにはいかない。

だから、やっぱりしょっちゅうネットワークというんですか、輪をね、いつもかけ

る。どないかしてかけようと思って、こちらは毎日やっています。

○萩副区長 よろしいでしょうか。実は、非常に悩んでいることがありましてね、どうやったら鶴見区は元気になるのかなと思ってね。やっぱり、どうしても役人が考えるとね、たかがしれているんですわ。イベントいっぱいやっていますけどね。ぜひ、皆さんのいいアイデアがあればいただきたいと思いますと思いましてね。ちょっと教えていただけませんかね。まず、猿渡さんから時計回りに。

○猿渡委員 僕が思うんですけど、総合案内窓口っていうのが非常に興味深い。先ほどのお話を伺ってしまして。もう、バーンと名前をかえてしまって、鶴見区コンシェルジュと。鶴見区の区役所の職員さんの中でもエキスパートですよ、願わくば在住の方。私も区民なんですよみたいな情熱を持った方でね。

○萩副区長 聞かれたら何でも答えられるような。

○猿渡委員 とか、窓口に、広報紙何月号にこういう記事がありましたとか、それこそ検定の優勝者みたいな人がいて、区役所の中のことももちろん、ご案内は、どこに行ったらええのという質問は当然あることではしょうけど、それだけではなくて、鶴見区のことはこの人に聞いたらいいいからというような、片仮名職業になりますけど、何でもご存じの方がおられるって、窓口に入った瞬間の半端ない圧がすごいんやろうなって。逆に僕は、入ったときに何や、このオーラっていう、鶴見区のことをほとんどご存じの、知らないことはございませんという方。

○萩副区長 鶴見区のこと俺に聞けというような。

○猿渡委員 はい、プロフェッショナル、ザ・鶴見区みたいな。ミスター鶴見区、ミス鶴見区がそこにおるというのは、すごく区役所自体の格が違うよなと思いながらお話を伺っていたので。

この間の全部、資料の流れで言いますと、鶴見区は子どもの人口はまだまだ増えるんだらうなって僕、思ったんですね。じゃあ、この前の楽園会議でも、ちらっと出て、涙が出そうになりましたけども、親子っていうキーワードなしに、この区は何も

できないとまで思いました。

というのは、虐待の問題であれ、貧困の問題であれ、さまざまな問題が、親子のきずなのもつれぐあいであつたりとかというのに端を発していることってすごい多い。教育問題も恐らくそうだと思います。さまざまな問題が親子のきずなのもつれぐあい、もつれぐあいが原因しているところってあるなど。

その親子のきずなをどういう健全な形で維持して、発展させていくかというか、育ち合ってもらうかというのを考えないことには、恐らく区の発展ですね、区政は僕はまだよくわかりませんが、子どもたちが元気で、おじいちゃんおばあちゃんたちも元気でというような中には、親子っていうキーワードが外せない区なんだろうと。

子どもがすごい多い、多いっていうことは、親の数も大概多いってことじゃないですか。だから、そこに対しての発信や受信が、うまくやりとりがいかないというのは、お先が暗くなってしまうので、いろんな発信、受信に対して心を開けるというか、窓口を開けるような、物すごい抽象的な言い方になって申しわけないですけど、そのためには恐らく、人の流れ方であつたりというのが、今の時代ですから、もっとCG化する、見える化することによって、皆さんがわかる、人とももの流れはこうやとか、ショッピングの流れはこうである、通勤の流れはこうなんだというものが、本当に、鶴見区の大動脈が見えたりすることで、区民が鶴見区自体に興味を持つきっかけにはなるんではなかろうかなとすごく思いますので。

今、かなり他区の方、他区で子育てをされている方はやっぱり同世代の知り合いが多いんですけども、他よりは元気な鶴見区と毎回思います。

○萩副区長 もっと元気に。

○猿渡委員 どこの区とか、どこの市とは言いませんけど。めちゃめちゃ鶴見区って元気やなって、先に僕ら夫婦と出会っていたら、間違いなく私は鶴見に越してきていたって言う人が、この間、3人いましたから、結構多いぞと思っています。すいません、長くなりました。

○萩副区長 ありがとうございます。佐々木委員どうですか。

○佐々木委員 やっぱり地道にコツコツと、繰り返しが必要じゃないかなと思います。一回終わったからこれで終わりじゃなくって、同じようなことでも繰り返ししているうちに、当然それが必要、その時に案外そう思ってなくっても、だんだんと繰り返しているうちに大事なことやなということがわかってくるんじゃないかなと思いますので。いろんな議題、こうして出てきていますけど、先へ先へとじゃなくとも、もう一回振り返ってみて、その結果でどうやったかということで、じゃあもう一回こうしていったというようなので、同じようなことの繰り返しもすごく大事やないかなと思いましたね。

○萩副区長 区役所も一緒に頑張りますんで、よろしくお願いします。木村会長。

○木村委員 僕もやっぱり、猿渡さんがおっしゃったように、鶴見区は子どもの出生率と高齢者が拮抗している唯一の区ですんで、当然、元気でなかったらいかんと思いますよ。子どもは大人の背中を見て育つんやから。

まさに鶴見区は子どもがたくさんおるから元気がある。で、榎本の場合は、お年寄りの皆さんが元気なんです。自分らで自分のことをやるし、まして子どもの、孫の見守り、これを今まで楽しみや、楽しみやって言ってやってくれている姿というのは、猿渡さんが言うように、子どもがたくさんいてるし、それによって、おじいちゃんおばあちゃんも孫かわいさで見守り活動に出ていくわけですから。まさに元気の塊の区だと、僕は思っていますけど。

○萩副区長 ありがとうございます。田中さん。

○田中（潔）委員 皆さん、おっしゃっておられるとおりになっちゃうんですけど、私は若い人が集まる、そういうまちにしていかないかと。若い人のエネルギーは元気をもらえますんで。コンサートが時々ありますね、緑地で。軽音楽のコンサートもこないだありましたけど、ああいうのは高校生主体になっていますかね。ああいう企画というのはいいなと思いますね。若い子が集まるというんですかね、それで元気を

もらうというんですか。そういうことが1つと思いますね、元気になる。

もちろん年寄りには年寄りで、私らも含めまして、毎日毎日がよい日になるように努力して、健康で元気で、社会的にお手伝いをしようと思ってやっているわけですけど、これはちょっと置いておいて、やっぱりもう1つ言えることは、向こう三軒両隣という言葉がありますね。これが、住む基本やと思いますね。無関心な人が増えていってしまうと、マンションの方々なんかはね。でも、やっぱりそういう気持ちというんですかね、昔の古い言葉で言えば、隣組というんですか、そういうものをしっかり守っていくというんですか、そういうふうになりたいと私自身は思っているんです。向こう三軒両隣って非常にいい言葉だと思います。やっぱり思いやり言うんですかね、相手のことを思いやる、そういうまちであってほしいですね。

○萩副区長 ありがとうございます。柴田さん、いかがでしょう。

○柴田委員 最初に佐々木会長がおっしゃったように、コツコツと積み上げていくというね、本当にそのとおりやなと思います。

10年以上も前に子育てサークルを立ち上げまして、そのときは道で呼び込まないと1人、2人と来ないんで、変わったことをするような感じで受け取られたんですけどね、今は黙っていても25、6組が毎月集まってきますのでね。そやからと言って、その人たちがどこの町会か、そんなことは全然調べるようなことはしていないんですけど、自分の地域の人が大半ですけど、今はどこでも受け入れるようになっていますのでね。少しずつ積み上げていくというのは、やっぱりそのとおりやなと思って。ただ、大変なんです、地域の運営が、正直言って非常にしんどいですね。そやけど、そのとおりやなと思って。

それと、今私のところの班で、15件ほどで1つの班なんですけどね、そのうち2件も空き家があるんです。鶴見区だよりも入れていただけているんだろと思うんですけど、新聞受けから出ていたら必ず押し込んで、入れるようにしているんですけど、もうすごいチラシが入りますでしょう。新聞はたまることはなくても、チラシがたま

るような、そういう空き家は2件あるんですね。そういうところを、もう少し何か考えられたら。夜なんかシンとしていますので、2件空き家というのは大きいですね。そんなところですよ。

○萩副区長 ありがとうございました。

○佐々木委員 一応これで、本日の予定されました会議は全て終了いたしました。いろいろご意見をたくさんありがとうございました。

○石川総務課担当係長 ありがとうございます。本日は多くの貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。本日いただきましたご意見につきましては、平成29年度の鶴見区運営方針素案を作成するにあたりまして、参考にさせていただきたいと思います。11月初旬に部会を開催させていただきまして、素案について、ご提示をさせていただいた上で、もう一度ご意見をいただきたいと考えておりますので、よろしくをお願いいたします。開催日につきましては、後日、担当のほうからご連絡をさせていただきます調整させていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

また、資料2の最後に、今後の鶴見区運営方針と予算のスケジュールについて記載させていただいておりますので、ご一読いただければと存じます。事務局からは以上です。

○佐々木委員 ありがとうございました。それでは、鶴見区区政会議第2回のつる魅力向上部会を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

閉会 20時29分